

2012年度 教育学部ラーニング・アウトカムズ

◎教育学教育のラーニング・アウトカムズ設定の基本原則

教育学教育の内容は、教育問題の科学の知見にある。それゆえ問題領域（対象）の輪郭を想定しないと、アウトカムズの項目が立てられない。さらに科学には対象ばかりでなく、方法も不可欠である。研究方法の学習を独立して学ばせるかどうかについては議論の余地はあるが、この点が重要であることに疑いはない。

そこで、教育問題の科学の領域を区分けしてみる（ここでは、クラフキ、村井実、長谷川、ブレツィンカなどが背景にある）。

- ・ 教育技術的思考の領域（どういう方法で）
- ・ 教育配列的思考の領域（どういう内容の順番で：）
- ・ 教育内容的思考の領域（どのような価値内容を）
- ・ 教育本質的思考の領域（教育とは何か、という無限定的な問い）

これらに、加えて

- ・ 教育における人間理解の領域（人間理解の理解）
- ・ 教育の社会・制度の問題の領域（家庭で、学校で、社会で）

方法は村井の4つに一つプラスして、

- ・ 理論的研究の領域
- ・ 実証的研究の領域
- ・ 実験的研究の領域
- ・ 歴史的研究の領域
- ・ 国際比較研究の領域

これをクロスさせて、格子状に構成してみる。

	理論的研究	実証的研究	実験的研究	歴史的研究	国際比較研究
教育本質的思考					
教育内容的思考					
教育配列的思考					
教育技術的思考					
教育における人間理解					
教育と社会					

以上の議論に優先順位も含め整理すると、以下に掲げる八項目がラーニング・アウトカムズとして設定されることになる。

◎教育学部のラーニング・アウトカムズ

1. 研究方法は、左の領域の探究のどこにも用いられるから、それらをアウトカムズそれぞれの項目の表現の中身に組み込むか、それとも研究方法として独立の項目を立てるか、このどちらかを決めなければならない。ここでは後者を採用しておく。
「教育学の研究手法（理論的研究、実証的研究、実験的研究、歴史的研究、国際比較研究）について理解し、それらを研究の目的と対象に応じて適切に駆使する。」
2. 教育本質的思考については、教育学の隣接科学からの相対的な自律性を保持する準拠先の確立が不可欠であるし、またその中心にある教育哲学には、問いの解決ではなくて、問いを発見することに意義が存する。そのため、次のような冒頭に提示した文言を提示しておく。
「世界を教育学的な『区別（見方）』から捉え、他の『区別（見方）』（経済、政治、法など）との関係において、そこに（教育）問題を発見すること」。
3. 教育配列的思考と教育内容的思考は、一般的には、カリキュラム研究の領域であり、そこでは「教育内容（価値内容：何が教えるべき価値あることか）」とその「具体化（教材構成）が問題になる。いま述べたように、価値内容の探究から具体的な教材構成レベルまで、といった広い学習の準拠先になる。
「教育的価値（何を学ぶべきか、正確には学ばせるべきか）についての思索を深めながら、それを具体的な教材レベル（ここで言う教材は、学校だけでなく、家庭や職場、社会までを視野に入れる）にまで加工できること。」
4. 教育技術的思考は、上記二つによって包括される。教育の技術も無論、教育問題の対象として位置づけられる。すなわち、単なる技術の適応というよりも、技術の開発（研究）という側面から文言の規定が必要である。
「教育技術を反省の対象として位置づけた上で、実際にそれを駆使することができる」とともに、自らそれを摂取・開発しようとする構えを有する。」
5. 教育的なはたらきかけにとって、人間（子ども）理解は大切である。広く人間理解に関する準拠点になる項目であるだけに、心理学関連の知見を組み入れる必要があるように思うが、いずれにしても大切なのは「理解の理解」にあると思う。暫定的に次のような文言にしておく。
「人間の心理現象について理解し、その知見を被教育者との教育的関係の構築に発揮できるとともに、終わりのない人間理解（人間は絶えず成長しようと変わっていくものだから）を追求し続ける構えを有する」

6. 人間の心の成り立ちやその現象について理解し、その知見を、被教育者との教育的関係の構築や改善、ならびに、教育以外の対人援助の仕事や諸活動において発揮できる。また、社会人として生きていくうえで、各人の持ち場において、心理学で学んだ知見を
活用しうる。

7. 心理学は、人間の心について客観的、体系的にアプローチするひとつの科学であることを認識し、科学としての学びであることを体得する。と同時に、人間の心の不可思議さへの謙虚な姿勢、また、既存の理論や概念のみでは心についてまだ解明しきれないことも多いことに自覚を持ち、終わりのない人間理解を追求し続ける構えを有すことができる。

8. 最後は、教育の社会的、より具体的には制度的な領域である。具体的には、教育の法規、教育制度、社会教育、そしてよい意味でも悪い意味でも公教育の主役である学校ということになる。諸分野の知見が混在するので、難しい。項目として区分させるかも含めて、議論の余地は大いにある。ここでは次のようにしておく。
「教育を社会制度やその歴史の中に位置づけて理解するとともに、教育学の一般性からそのあるべき姿を模索し続けることができる。」

教育学部における教育の質保証への取り組みに関する報告

教育学部長 鈴木 将史

1. はじめに

教育学部では、2012年度にラーニング・アウトカムズを定め、2014年度から新カリキュラムをスタートさせたが、「学部教育で育成すべき人材像を3ポリシーに基づいて描き、ラーニング・アウトカムズとカリキュラム・マップによって、その人材像に対するカリキュラムの正当性を裏付ける」という段階にはいまだ至っていない。したがって、「各授業が掲げる到達目標の達成度を測る」ことはできても、「その集積によって学部教育の成果を測定する」という質保証の作業までは十分に行えない状況にある。

本報告では、教育学部が現在抱える問題点を明らかにし、その改善の取り組みと来年度への展望を示すことによって、本年度の質保証の取り組みの報告としたい。

2. ラーニング・アウトカムズの再設定

今年度は、まずラーニング・アウトカムズに基づくカリキュラム・マップの作成を試みた。ところがその作業を実際に行ってみると、現行のアウトカムズが教育学の学問的体系に基づいて作成されているため、結果として専門科目の分類のような形式になっており、各専門科目に当てはまるアウトカムズが、その授業内容からほぼ1つか2つに定まってしまうこと、また同一の分野に属する科目が、基本的にすべて同じ項目に対応してしまうことが明らかとなった⁽¹⁾。

そのため、教育学や心理学の学問的な根拠を保ちつつも、それと同時に広くどの専門科目

(1) 2012年度版教育学部のラーニング・アウトカムズは以下のようなものであった。

1. 教育学の研究手法（理論的研究、実証的研究、実験的研究、歴史的研究、国際比較研究）について理解し、それらを研究の目的と対象に応じて適切に駆使する。
2. 世界を教育的な「区別（見方）」から捉え、他の「区別（見方）」（経済、政治、法など）との関係において、そこに（教育）問題を発見することができる。
3. 教育的価値（何を学ぶべきか、正確には学ばせるべきか）についての思索を深めながら、それを具体的な教材レベルにまで加工できる。
4. 教育技術を反省の対象として位置づけた上で、実際にそれを駆使することができるとともに、自らそれを撰取・開発しようとする構えを有する。
5. 人間の心理現象について理解し、その知見を被教育者との教育的関係の構築に発揮できるとともに、終わりのない人間理解（人間は絶えず成長しようと変わっていくものだから）を追求し続ける構えを有する。
6. 人間の心の成り立ちやその現象について理解し、その知見を、被教育者との教育的関係の構築や改善、ならびに、教育以外の対人援助の仕事や諸活動において発揮できる。また、社会人として生きていくうえで、各人の持ち場において、心理学で学んだ知見を活用しうる。
7. 心理学は、人間の心について客観的、体系的にアプローチする一つの科学であることを認識し、科学としての学びであることを体得する。と同時に、人間の心の不可思議さへの謙虚な姿勢、また、既存の理論や概念のみでは心についてまだ解明しきれないことも多いことに自覚を持ち、終わりのない人間理解を追求し続ける構えを有することができる。
8. 教育を社会制度やその歴史の中に位置づけて理解するとともに、教育学の一般性からそのあるべき姿を模索し続けることができる。

でも育成に寄与できるような、新たなラーニング・アウトカムズを再設定することが検討された。その議論の中で、日本学術会議で示されたような「知識・理解」「汎用的能力」「態度・構え」の区分にしたがってアウトカムズを設定する方が、社会に対して説得力を持つのではないかとの提案があり、この条件を満たしたアウトカムズを設定しようと試みた。

このような問題意識から、他大学のラーニング・アウトカムズも参考にして、現在以下のような、新しいラーニング・アウトカムズの出案が出されている。

創価大学教育学部 新ラーニング・アウトカムズ〔案〕

知識・理解

1. 教育学と心理学に関する基本的な知識を理解する。
2. 教育学と心理学の研究方法を理解する。
3. 世界（経済、政治、倫理、宗教、自然、芸術、身体、そしてこころ）の諸問題を理解し、そこに教育問題・課題を捉えることができる。

考える力

4. 世界と自己自身の間を結びつける意味で、反省的に思考することができる。
5. 世界の諸問題を教育的または心理学的な観点から分析的に思考することができる。
6. 世界の諸問題の解決を教育実践または臨床実践としてデザインする意味で、構想的に思考することができる。

行なう力

7. 教育学と心理学の研究方法を対象と目的に応じて適切に利用できる。
8. 世界の諸問題に対する教育実践上あるいは臨床実践上の解決を見出し、それに取り組むことができる。
9. 教育実践または臨床実践に、同僚性のなかでリーダーシップを発揮しながら取り組むことができる。

態度

10. 自他とのコミュニケーションを通して、絶えることない自己成長を追求する態度を持つ。
11. 価値に対する謙虚さを自覚しなければならない意味で、教育的な倫理性を持つ。
12. 他者の主体性を尊重しながら、その成長を支え促そうとする教育的な責任感を持つ。

上記の案をもとに教育学部教授会で議論し、学部としての合意を図る予定である。12項目に及ぶアウトカムズは煩雑に過ぎるとの意見もあるであろうが、カリキュラム・マップの作成とともに教授会員の意見を反映させ、よりよいものにしていきたい。

3. カリキュラム・マップの作成と到達度の測定

ラーニング・アウトカムズを上のような理念のもとで再設定するに当たっては、すでに述べたように、カリキュラム・マップについても同時に作成して教授会に諮ることになる。カリキュラム・マップの作成が、ラーニング・アウトカムズ改訂の直接的な動機だからである。本来であれば本報告の前に学部教授会で確定しておくべきところであったが、3月の教授会で議論し、アウトカムズとマップの両方を何とか今年度中に確定させたい。

作業としてはやや遅れてしまうが、ラーニング・アウトカムズ達成度の測定方法の開発および実際の試行については、2015年度以降すみやかに取り組んでいきたい。

なお、こうしたカリキュラム関連の作業に先立ち、教育学部では2014年度より独自の学生生活調査を始めた。学生たちの各学年における学習活動の実態や学生生活における意識を調査し、また経年的に追跡することをおして、4年間にわたる学生生活を個別的に、また集団的に支援していこうというのがその目的である。そのような生活調査と具体的な各授業におけるアウトカムズの到達度の測定を組み合わせることで、いわば2つの座標軸を用いて学生指導に当たり、学部としての特徴を出していきたい。

教育学科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基礎演習 I			○	○					○	◎		
基礎演習 II			○	○					◎	○		
教育学概論 I	◎			○				○				○
教育学概論 II	◎			○				○				○
学校研究	○			◎			○			○		
教育学研究法		◎		○			○				○	
教育哲学												
教育社会学	◎		○		○						○	
教育方法学	○			◎			○					○
学習理論		○		◎			○			○		
教育史 A	◎		○	○	○							
教育史 B	◎			○			○				○	
カリキュラム論	○				○		◎	○				
教育行財政学	◎		○								○	
教育評価	○			○			◎			○		
教育学特講A (海外招聘教員)												
教育学特講B												
教育学特講C												
心理学概論 I	◎	○			○		○					
心理学概論 II	◎	○			○							○
教育心理学 I	◎				○		○					○
教育心理学 II	◎				○		○					○
発達心理学 I	◎				○		○			○		
発達心理学 II	◎				○		○			○		
臨床心理学 I		○	○		○		◎					
臨床心理学 II		○	○		○		◎					
教育カウンセリング			○		○		◎					○
心理学特講A (海外招聘教員)												
心理学特講B	◎	○			○						○	
心理学特講C	◎	○			○		○					
国際開発教育論	◎				○	○		○				
海外から見た日本の教育			◎		○			○				○
比較・国際教育学 A			○		◎			○		○		
比較・国際教育学 B			◎		○			○				○
海外教育事情 A												
海外教育事情 B												
海外教育研修			◎		○			○				○
英語特講 A			○		○	◎		○				
英語特講 B			○		○	◎		○				
英語特講 C												
Educational Psychology	◎	○			○						○	
Sociology of Education	○				○	○		◎				
国際教育特論 A (海外招聘教員)												
国際教育特論 B (海外招聘教員)												
教職概論			○		◎			○				○
教育とボランティア I	○			◎			○					○
教育とボランティア IIA			○		◎			○				○
教育とボランティア IIB		○			◎			○				○
生徒・進路指導論	○				○							
特別活動：教育	◎				○			○				
教育とキャリア								○		○		○
学校インターンシップ I			○		○			○		○		
学校インターンシップ II			○		○			○		○		
学校インターンシップ III			○		○			○		○		○

授業科目/ラーニングアウトカムズ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ミュージアム・エデュケーション I			○	○					◎	○		
ミュージアム・エデュケーション II			○			○			◎	○		
道徳教育論			○		◎				○		○	
環境教育論	○		○		○						○	
情報教育論			○		◎				○			○
教育実習 (中・高)												
教育実習 (高)												
教職実践演習			○						○	○		◎
演習 I												
演習 II												
演習 III												
演習 IV												
卒業研究 I												
卒業研究 II												
生涯学習概論	○				◎		○			○		
社会教育概論	○				◎		○			○		
特別支援教育概論	◎	○			○			○				
博物館学総論	◎				○	○						
社会教育計画 I	○				◎			○				○
社会教育計画 II	○				◎			○				○
社会教育特講 A	◎				○			○		○		
児童福祉論	◎				○			○		○		
社会教育演習			○		○				◎			○
社会教育課題研究 I		○			◎		○			○		
社会教育課題研究 II		○			◎		○			○		
社会教育特講 B	◎				○			○		○		
日本史 I												
日本史 II												
外国史 I (西洋史)												
外国史 II (東洋史)												
西洋文化史												
西洋社会史												
東洋文化史 I												
東洋文化史 II												
地理学 I												
地理学 II												
人文地理学												
自然地理学												
地誌学												
法学：教職												
政治学原論：教職												
社会学概論												
哲学概論 I												
哲学概論 II												
倫理学概論 I												
倫理学概論 II												
宗教学 I												
宗教学 II												
民俗学 I：教職												
民俗学 II：教職												
◎	22	1	3	1	8	9	2	4	3	2	0	1
○	12	11	24	6	29	12	11	25	10	19	7	20

創価大学教育学部 新ラーニング・アウトカムズ

知識・理解

1. 教育学または心理学に関する基本的な知識を理解する。
2. 教育学または心理学の研究方法を理解する。
3. 世界(経済、政治、倫理、宗教、自然、芸術、身体、そしてこころ)の諸問題を理解し、そこに教育問題・課題を捉えることができる。

考える力

4. 世界と自己自身の間を結びつける意味で、反省的に思考することができる。
5. 世界の諸問題を教育的または心理学的な観点から分析的に思考することができる。
6. 世界の諸問題の解決を教育実践または臨床実践としてデザインする意味で、構想的に思考することができる。

行為する力

7. 教育学または心理学の研究方法を対象と目的に応じて適切に利用できる。
8. 世界の諸問題に対する教育実践上または臨床実践上の解決を見出し、それに取り組むことができる。
9. 教育実践または臨床実践に、同僚性のなかでリーダーシップを発揮しながら取り組むことができる。

態度

10. 自他とのコミュニケーションを通して、絶えることない自己成長を追求する態度を持つ。
11. 価値に対する謙虚さを自覚しなければならない意味で、教育的な倫理性を持つ。
12. 他者の主体性を尊重しながら、その成長を支え促そうとする教育的な責任感を持つ。

児童教育学科												
授業科目/ラーニングアウトカムズ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基礎演習Ⅰ			○	○					○	◎		
基礎演習Ⅱ			○	○					◎	○		
初等教育原理Ⅰ	◎			○				○				○
初等教育原理Ⅱ	◎			○				○				○
学校研究	○				◎		○			○		
カリキュラム論		○			○	○		○				
教育行財政学	◎		○								○	
教育方法論	○					◎		○		○		○
教育評価	○				○			◎		○		
教育学特講A												
教育学特講B												
心理学概論Ⅰ	◎	○			○		○					
心理学概論Ⅱ	◎	○			○		○					
教育心理学	◎	○			○							
発達心理学	◎				○			○		○		
教育カウンセリング			○		○			◎				○
心理学特講A												
心理学特講B	◎	○			○					○		
海外教育事情A												
海外教育事情B												
海外教育研修												
教職概論			○			◎			○			○
教育とボランティアⅠ	○			◎			○					○
教育とボランティアⅡ			○		◎			○				○
生徒・進路指導論	◎					○		○		○		
特別活動				○	◎			○				○
教育とキャリア								○		○		○
学校インターンシップⅠ			○		○			○		○		
学校インターンシップⅡ			○			○			○		○	
学校インターンシップⅢ			○			○			○			○
ミュージアム・エデュケーションⅠ			○	○					◎	○		
ミュージアム・エデュケーションⅡ			○			○			○	◎		
道徳教育論			○			◎			○		○	
情報教育論			○			◎			○	○		○
教育実習(幼・小)												
教育実習(特別支援)												
教職実践演習(幼・小)				○				◎			○	○
演習Ⅰ												
演習Ⅱ												
演習Ⅲ												
演習Ⅳ												
卒業研究Ⅰ												
卒業研究Ⅱ												
生活科教育	○					◎	○					○
図工科教育			○	◎			○		○			
家庭科教育	○					◎	○			○		
体育科教育	◎	○					○					
国語科教育	○					◎	○					○
社会科教育			◎			○			○	○		
算数科教育			○			◎		○				○
理科教育	○					◎	○					○
音楽科教育			○			○			◎			○
生活科学	○				○		◎					
家庭科学	○				○		◎			○		○
学校保健												
小学校の英語教育												
英語特講A												
英語特講B												
英語特講C												

授業科目/ラーニングアウトカムズ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日本語論												
子供と文学												
文学を読む												
書写									◎		◎	
社会科概説			◎	○					○			
地理学概説			◎	○					○			
歴史学概説			◎	○								
政治経済学概説												
数の概念			○		◎	○	○					
図形												
数量関係			○		○	◎		○				
確率と統計	○				○			◎				
エネルギー科学基礎	○				○			◎				
生物の世界			○	◎				○			○	
地球の生態系			○	◎				○			○	
理科実習			○	○				◎			○	
環境科学			○	○				○			◎	
音楽入門			◎			○		○		○		
音楽概論			◎			○		○		○		
音楽実技表現			○			○			◎	○		
ピアノ入門												
リトミック			○			○				○	◎	
音楽基礎演習(ピアノ)												
音楽演習			○			○			◎	○		
美術の基本			◎	○								
立体表現基礎			◎	○				○		○		
平面表現基礎			◎	○				○		○		
表現と鑑賞			○	○					◎	○		
体育概論			○	○				○			◎	
自然体験			○		○			◎				○
体づくり運動	○											◎
器械・陸上運動	◎	○						○				
表現運動	○											◎
ボールゲーム			○	○					◎			○
保育内容総論Ⅰ	◎										○	
保育内容総論Ⅱ	◎				◎		○					○
保育方法論	○					○		○				◎
保育内容A(健康)	◎	○						○				
保育内容B(人間関係)	◎				○							○
保育内容C(環境)	◎				○							○
保育内容D(言葉)	◎				○							○
保育内容E(音楽表現)			○			◎			○	○		
保育内容F(造形表現)	○	○						◎			○	
幼児理解と教育相談	◎											
幼児教育総合演習												
特別支援教育概論	◎			○			○	○				
知的障害教育Ⅰ	◎				○		○				○	
知的障害教育Ⅱ		○				○		◎				○
知的障害者の心理・生理・病理			◎		○			○			○	
LD等教育総論	○				◎			○			○	
LD等の心理・生理・病理			◎		○			○			○	
肢体不自由教育総論												
肢体不自由者の心理・生理・病理												
視覚・聴覚障害教育総論												
病弱教育総論												
障害者の心理・生理・病理A												
障害者の心理・生理・病理B												
障害者の心理特論		◎			◎			○			○	
特別支援教育特論				○				○	◎		○	

過去5年の教員採用試験合格者数(現役)

平成23年3月卒業

校種 教科	小学校	幼稚園	中学校／高校						合計
			社会	英語	国語	数学	理科	商業	
学部	経済	4							4
	法	1							1
	文	2		2	1	3			8
	経営	2							2
	教育	40	12		3				55
	工	1					4	1	6
合計	50	12	2	4	3	4	1	0	76

平成24年3月卒業

校種 教科	小学校	幼稚園	中学校／高校						合計
			社会	英語	国語	数学	理科	商業	
学部	経済	1							1
	法	1		1					2
	文	3		1	3	3			10
	経営	1						1	2
	教育	43	4		3				50
	工						1	4	5
合計	49	4	2	6	3	1	4	1	70

平成25年3月卒業

校種 教科	小学校	幼稚園	中学校／高校						合計
			社会	英語	国語	数学	理科	商業	
学部	経済								0
	法	1		2					3
	文	2	1	1	1	1			6
	経営	3							3
	教育	49	16	1	9				75
	工						5	3	8
合計	55	17	4	10	1	5	3	0	95

平成26年3月卒業

校種 教科	小学校	幼稚園	中学校／高校						合計
			社会	英語	国語	数学	理科	商業	
学部	経済	1							1
	法								0
	文	2	1	1	2	1			7
	経営	1							1
	教育	25	7	1	3				36
	工							1	1
合計	29	8	2	5	1	0	1	0	46

平成27年3月卒業

校種 教科	小学校	幼稚園	中学校／高校						合計
			社会	英語	国語	数学	理科	商業	
学部	経済								0
	法			1					1
	文			1	4	2			7
	経営								0
	教育	30	8	2	7		2		49
	工						3		3
合計	30	8	4	11	2	5	0	0	60

過去5年の教員免許取得者数

平成23年3月卒業

校種 教科	小学校	幼稚園	中学校／高校						合計
			社会	英語	国語	数学	理科	情報	
学部	経済	5		2					7
	法			5					5
	文	4		13	22	14			53
	経営	3		7				4	14
	教育	124	64	18	32				238
	工						10	10	2
合計	136	64	45	54	14	10	10	6	339

平成24年3月卒業

校種 教科	小学校	幼稚園	中学校／高校						合計
			社会	英語	国語	数学	理科	情報	
学部	経済	3		5					8
	法	1		9					10
	文	4	3	7	28	13			55
	経営	1		4				3	8
	教育	126	66	18	17				227
	工						9	21	2
合計	135	69	43	45	13	9	21	5	340

平成25年3月卒業

校種 教科	小学校	幼稚園	中学校／高校						合計
			社会	英語	国語	数学	理科	情報	
学部	経済			1					1
	法	1		4					5
	文	6	2	11	18	12			49
	経営	6	1	4					11
	教育	126	82	15	38				261
	工						12	9	1
合計	139	85	35	56	12	12	9	1	349

平成26年3月卒業

校種 教科	小学校	幼稚園	中学校／高校						合計
			社会	英語	国語	数学	理科	情報	
学部	経済			2					2
	法	1		8					9
	文	4	1	5	20	7			37
	経営	1	1	2					4
	教育	97	56	18	27				198
	工						10	8	
合計	103	58	35	47	7	10	8	0	268

平成27年3月卒業

校種 教科	小学校	幼稚園	中学校／高校						合計
			社会	英語	国語	数学	理科	情報	
学部	経済			4					4
	法			5					5
	文	1		10	24	12			47
	経営			3					3
	教育	105	59	17	26				207
	工						11	4	
合計	106	59	39	50	12	11	4	0	281

教職に関する科目

授業科目名： 教職実践演習（小）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福島良樹・西山 多恵子・間瀬静夫・佐久間洋 子・櫻井啓雅
			担当形態：オムニバス
科 目	教職に関する科目（教職実践演習）		
各科目に含めることが 必要な事項			
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・教職に対する使命感と情熱を身につけている。 ・職責や組織の一員であることを自覚している。 ・幼児・児童・生徒に対し昨今の変容とその対応と指導ができる。 ・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。 ・集団の中で他人の意見を聞き適切な応答ができています。 ・いじめなど人権を尊重する態度を身に付けている。 ・作成した学習案を基にして授業ができる。 ・今の学校教育における課題を広く理解する。 以上のような到達目標について演習等を通じて確認する。			
授業の概要 本授業は ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ④教科等の指導力に関する事項 について、教員として最低限度の資質・能力を身につけているかどうかを確認していく。 「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導をおこなう。 演習、グループ討論、場面指導、事例発表等の形式で授業を行う。			
授業計画 第1回 これまでの学習の振り返りについての講義・グループ討議 第2回 教職の意義や教員の役割について（講義・グループ討議） 第3回 教員の職務内容及び服務規程について（講義・グループ討議） 第4回 社会性・対人関係能力について（講義・グループ討議） 第5回 児童理解と学級経営の課題について（講義・グループ討議） 第6回 生徒指導・教育相談の意義と教員の役割について（講義・グループ討議）			

教職に関する科目

- 第7回 児童対応と保護者対応（講義・ロールプレイング）
- 第8回 人権教育（講義・グループ討議）
- 第9回 学習指導案作成とグループ討議
- 第10回 学習指導案作成とグループ討議
- 第11回 模擬授業とグループ討議
- 第12回 模擬授業とグループ討議
- 第13回 教育事例研究（現職校長による実践事例発表）（全体講義）
- 第14回 教育事例研究（現職校長による実践事例発表）（全体講義）
- 第15回 資質能力の確認・まとめ

※13回・14回以外はすべて担当教員一人でおこなう。

※これまでのように担当領域を決めておこなうオムニバスではなく、一人の先生が1クラスを担当しすべての領域の授業をおこなう。

※受講者予想は100名。5人の先生でクラスを編成するため、1クラス20名。

※教職ポートフォリオにて学生の学習記録を必ず参照し、指導に活用する。

テキスト

各担当教員が用意する資料を作成

参考書・参考資料等

1. 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（中教審答申 平成24年8月）
2. 学習指導要領、学習指導要領解説

学生に対する評価

【日常点】 100%（グループ討議・模擬授業・学習指導案作成等）

評価はP・F評価とする。

教職に関する科目

授業科目名： 教職実践演習（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石野日出夫・山本誠一・清水研一郎・青木正・松尾耕作
			担当形態：オムニバス
科 目	教職に関する科目（教職実践演習）		
各科目に含めることが 必要な事項			
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・教職に対する使命感と情熱を身につけている。 ・職責や組織の一員であることを自覚している。 ・幼児・児童・生徒に対し昨今の変容とその対応と指導ができる。 ・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。 ・集団の中で他人の意見を聞き適切な応答ができています。 ・いじめなど人権を尊重する態度を身に付けている。 ・作成した学習案を基にして授業ができる。 ・今の学校教育における課題を広く理解する。 以上のような到達目標について演習等を通じて確認する。			
授業の概要 本授業は ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ④教科等の指導力に関する事項 について、教員として最低限度の資質・能力を身につけているかどうかを確認していく。 「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導をおこなう。 演習、グループ討論、場面指導、事例発表等の形式で授業を行う。			
授業計画 第1回 これまでの学習の振り返りについての講義・グループ討議 第2回 教職の意義や教員の役割について（講義・グループ討議） 第3回 教員の職務内容及び服務規程について（講義・グループ討議） 第4回 社会性・対人関係能力について（講義・グループ討議） 第5回 生徒理解と学級経営の課題について（講義・グループ討議） 第6回 生徒指導・教育相談の意義と教員の役割について（講義・グループ討議）			

教職に関する科目

- 第7回 生徒対応と保護者対応（講義・ロールプレイング）
- 第8回 人権教育（講義・グループ討議）
- 第9回 学習指導案作成とグループ討議
- 第10回 学習指導案作成とグループ討議
- 第11回 模擬授業とグループ討議
- 第12回 模擬授業とグループ討議
- 第13回 教育事例研究（現職校長による実践事例発表）（全体講義）
- 第14回 教育事例研究（現職校長による実践事例発表）（全体講義）
- 第15回 資質能力の確認・まとめ

※第1回から8回、15回は担当教員一人でおこなう。

※第9回から12回は教科の教員でおこなう

国語は非常勤、英語は尾崎秀夫先生、社会は吉田和義先生、数学は鈴木将史先生、理科は本間 均先生

※これまでのように担当領域を決めておこなうオムニバスではなく、一人の先生が1クラスを担当しすべての領域の授業をおこなう。

※受講者予想は100名。5人の先生でクラスを編成するため、1クラス20名。

※教職ポートフォリオにて学生の学習記録を必ず参照し、指導に活用する。

テキスト

各担当教員が用意する資料を作成

参考書・参考資料等

1. 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（中教審答申 平成24年8月）
2. 学習指導要領、学習指導要領解説

学生に対する評価

【日常点】 100%（グループ討議・模擬授業・学習指導案作成等）

評価はP・F評価とする。

教職に関する科目

授業科目名： 教職実践演習（幼稚園）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：清水百合香														
			担当形態：単独														
科 目	教職に関する科目（教職実践演習）																
各科目に含めることが 必要な事項																	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職に対する使命感と情熱が身についている。 ・職責や組織の一員であることを自覚している。 ・幼児・児童に対し昨今の変容とその対応と指導ができる。 ・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。 ・集団の中で他人の意見を聞き適切な応答ができています。 ・いじめなど人権を尊重する態度を身に付けている。 ・作成した保育指導案を基にして保育・指導ができる。 ・今の幼稚園教育における課題を広く理解する。 <p>以上のような到達目標について演習等を通じて確認する。</p>																	
<p>授業の概要</p> <p>本授業は</p> <ol style="list-style-type: none"> ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③幼児理解や学級経営等に関する事項 ④保育の指導力に関する事項 <p>について、教員として最低限度の資質・能力を身につけているかどうかを確認していく。「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導をおこなう。</p> <p>演習、グループ討論、場面指導、事例発表等の形式で授業を行う。</p>																	
<p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス・本授業の概要・自己の課題について（講義）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>幼稚園・教師の役割・現代における教育課題（講義・グループ討議）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>学級経営・学級経営案について（講義・グループ討議）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>幼稚園の生活と行事・行事の展開について（講義・グループ討議）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>幼児理解と幼児の発達・対応について（講義・グループ討議）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>幼児の発達の時期に応じた指導（講義・グループ討議）</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>家庭との連携①保護者との連携・学級だよりの活用（講義・課題）</td> </tr> </table>				第1回	ガイダンス・本授業の概要・自己の課題について（講義）	第2回	幼稚園・教師の役割・現代における教育課題（講義・グループ討議）	第3回	学級経営・学級経営案について（講義・グループ討議）	第4回	幼稚園の生活と行事・行事の展開について（講義・グループ討議）	第5回	幼児理解と幼児の発達・対応について（講義・グループ討議）	第6回	幼児の発達の時期に応じた指導（講義・グループ討議）	第7回	家庭との連携①保護者との連携・学級だよりの活用（講義・課題）
第1回	ガイダンス・本授業の概要・自己の課題について（講義）																
第2回	幼稚園・教師の役割・現代における教育課題（講義・グループ討議）																
第3回	学級経営・学級経営案について（講義・グループ討議）																
第4回	幼稚園の生活と行事・行事の展開について（講義・グループ討議）																
第5回	幼児理解と幼児の発達・対応について（講義・グループ討議）																
第6回	幼児の発達の時期に応じた指導（講義・グループ討議）																
第7回	家庭との連携①保護者との連携・学級だよりの活用（講義・課題）																

教職に関する科目

- 第8回 家庭との連携②保護者への対応・人権教育（講義・ロールプレイング）
第9回 教育環境と安全指導、地域・関係機関との連携（講義・グループ討議）
第10回 学習指導案作成とグループ討議
第11回 模擬保育とグループ討議
第12回 模擬保育とグループ討議
第13回 模擬保育とグループ討議
第14回 教育事例研究（現職校長による実践事例発表）（全体講義）
第15回 教育事例研究（現職校長による実践事例発表）（全体講義）

※14回・15回以外はすべて担当教員一人でおこなう。

※一人の先生が1クラスを担当しすべての領域の授業をおこなう。

※教職ポートフォリオにて学生の学習記録を必ず参照し、指導に活用する。

テキスト

各担当教員が用意する資料を作成

参考書・参考資料等

1. 幼稚園教育要領解説

学生に対する評価

【日常点】 100%（グループ討議・模擬授業・学習指導案作成等）

評価はP・F評価とする。